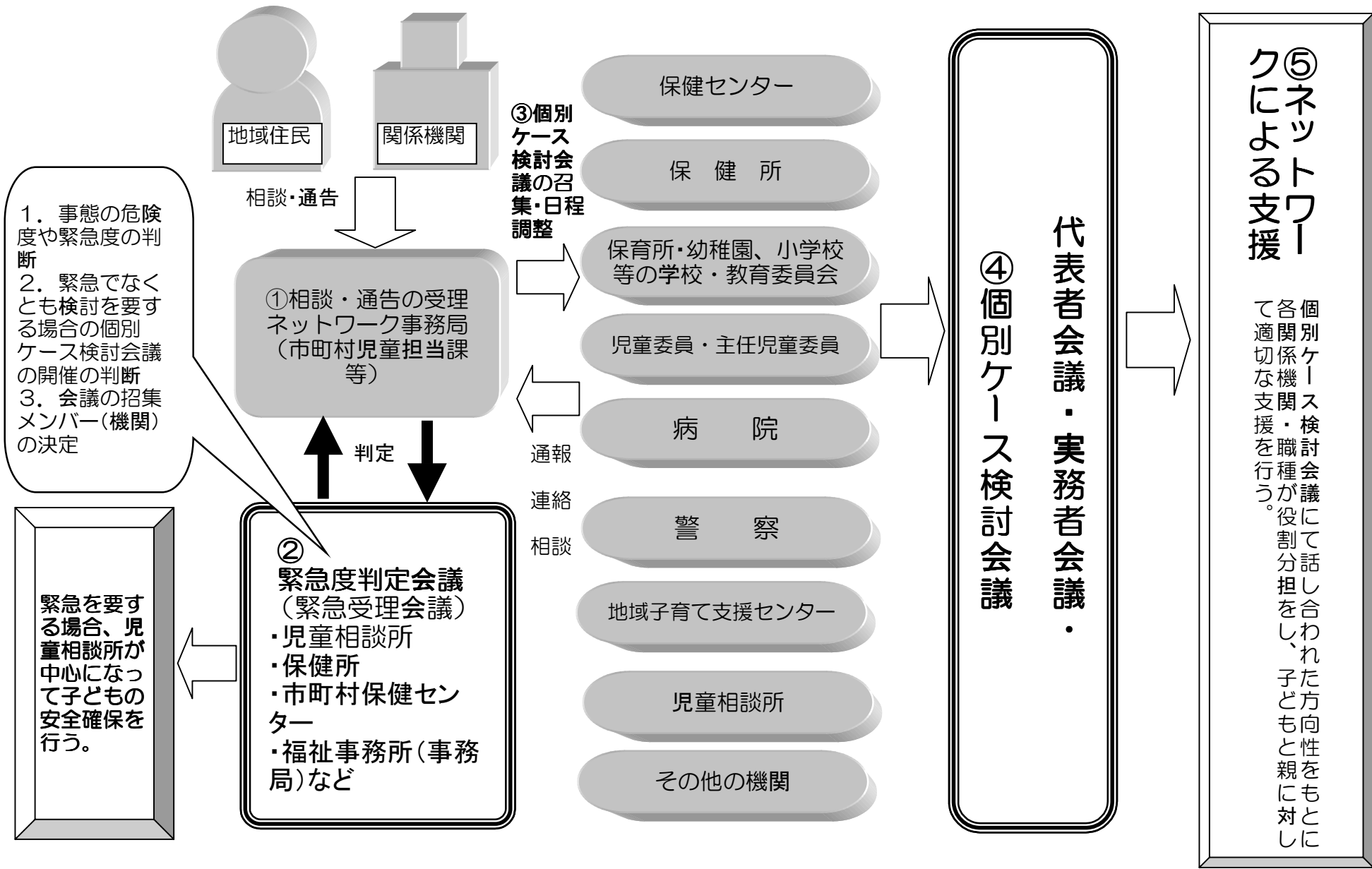


ネットワークのモデル的な実践例



1. 事態の危険度や緊急度の判断
 2. 緊急でなくとも検討を要する場合の個別ケース検討会議の開催の判断
 3. 会議の招集メンバー(機関)の決定

緊急を要する場合、児童相談所が中心になって子どもの安全確保を行う。

② 緊急度判定会議 (緊急受理会議)
 ・児童相談所
 ・保健所
 ・市町村保健センター
 ・福祉事務所(事務局)など

③ 個別ケース検討会議の召集・日程調整
 通報
 連絡
 相談

- 保健センター
- 保健所
- 保育所・幼稚園、小学校等の学校・教育委員会
- 児童委員・主任児童委員
- 病院
- 警察
- 地域子育て支援センター
- 児童相談所
- その他の機関

④ 個別ケース検討会議
 代表者会議・実務者会議

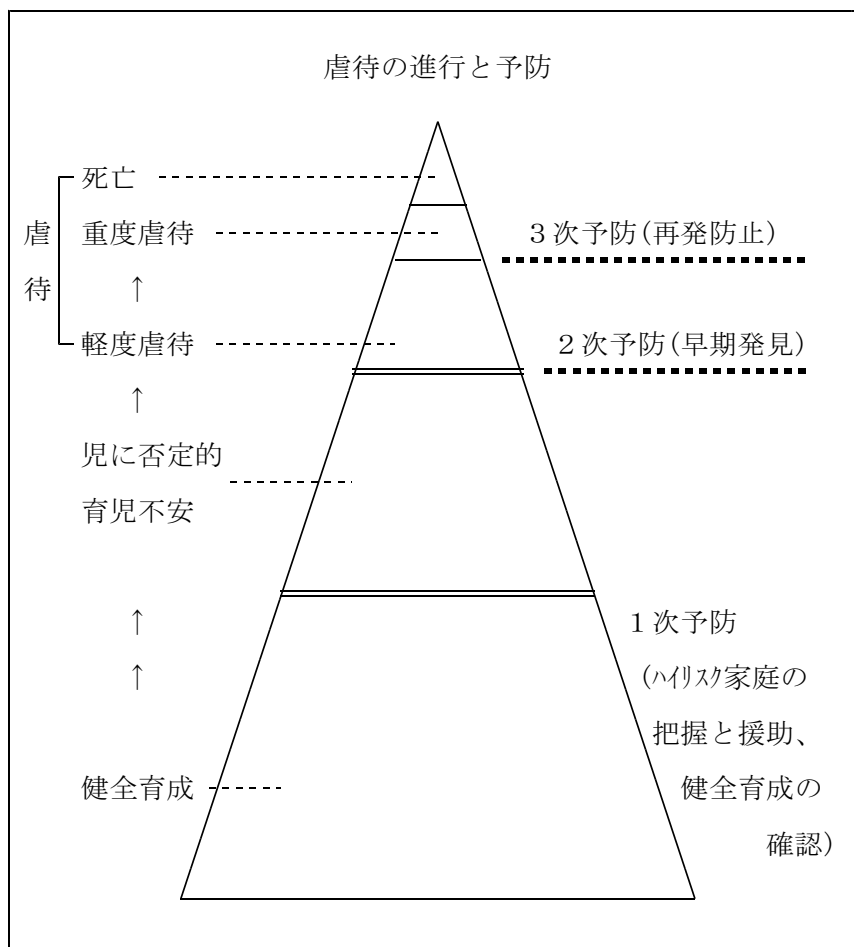
⑤ ネットワークによる支援
 個別ケース検討会議にて話し合われた方向性をもとに各関係機関・職種が役割分担をし、子どもと親に対して適切な支援を行う。

図 11-2 虐待相談・通告受付票

聴取者 ()

受理年月日		平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分	
子ども	ふりがな氏名		
	生年月日	昭和・平成 年 月 日生 () 歳 男・女	
	住 所		
	就学状況	未就学 / 保・幼・小・中・高校 年 組 担任名 () 出席状況： 良好 欠席がち 不登校状態	
保護者	ふりがな氏名		
	職 業		
	続柄年齢	続柄 () 年齢 (歳)	続柄 () 年齢 (歳)
	住 所	電話	
虐待内容		<ul style="list-style-type: none"> ・誰から ・いつから ・頻度は ・どんなふうに 	
虐待の種類		(主◎ 従○：身体的／性的／ネグレクト／心理的)	
子どもの状況		<ul style="list-style-type: none"> ・現在の居場所： ・保育所等通園の状況： 	
家庭の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・家族内の協力者 () ・家族以外の協力者 () ・きょうだいの有無 有 ・ 無 ・同居家族 	
情報源と保護者の了解		<ul style="list-style-type: none"> ・通告者は 実際目撃している・悲鳴や音等を聞いて推測した ・通告者は 関係者 () から聞いた ・保護者は この通告を (承知・拒否・知らせていない) 	
通告者	氏 名		
	住 所	電話	
	関 係	家族・近隣・学校・保育所・病院・保健所・児童委員・警察	
	通告意図	子どもの保護 ・ 調査 ・ 相談	
	調査協力	調査協力 (諾 ・ 否) 当所からの連絡 (諾 ・ 否)	
通告者への対応		<ul style="list-style-type: none"> ・自機関で実態把握する ・その他 () 	
決 裁		年 月 日	

図 11 - 3



図は平成 11 年度厚生科学研究

「虐待の予防、早期発見及び再発防止に向けた地域における連携体制の構築に関する研究」

(主任研究者 松井一郎) から